

「生徒の学びに向かう力を育む御成門中学校」-自ら充実した学校生活を創造し世界に発信する-



御成門だより

令和4年5月2日発行

第2号

発行責任者

港区立御成門中学校

校長 佐藤 太

教育目標

「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」

〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話 03-3436-3553 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-tky.ed.jp

「教える事」と「学ぶ事」

校長 佐藤 太

新緑の映える5月です。

「教える」の基は「愛おしい」から生まれました。百人一首の中に、政治的対立で幽閉された平安の歌人で、

「人もをし、人も恨めし あぢきなく 世を思ふゆえに もの思ふ身は」(人をいとおしくも、恨めしくも思ってしまう時があるのです。ままならないこの世を思う、今の私には)という和歌があります。この句の「人もをし」の「をし」とは「惜しい」、つまり「いと惜しい」という「大切にする」の意味です。

「教える」の「をし」は→「いとをし」→「いと惜しい」となり、現代の漢字で「愛おしい」「愛おしむ」となり、「教える」が生まれたのです。「教える」とは、大切なものを人に分け与え、知識技能を人と分かち合う意「愛おしむ」が根底にあるのです。ですから私達教職員や保護者は、愛=教の意の「教える」とは何かを問い続ける事が大事です。

「学ぶ」の語源は「真似ぶ」「まねる」です。弟子が、師の基本の型を真似て習い、知識や技能を修得する「真似ぶ」=「学ぶ」が使われ始めたのは平安時代です。しかし、現代でも「学ぶ事は真似る事から始まる」と感じている人は多いでしょう。赤ちゃんは、身近な大人の言葉を真似る事で言葉を増やし、使い方を学んでいきます。生徒の皆さんの学習も、同様に、先人達の発見蓄積してきた知識・技能を体系化した事を基に、学問や教科に整理し直して、それらをなぞりながら習っているのです。生徒の皆さんは、正しく、上手に真似ながら効果的に身に付ける事が、学びの近道であるとも言えます。そして、真似ぶにとどまらず、基本の型や基礎を身に付けながら工夫やオリジナリティを生み出してください。学生よ「よく学びよく遊べ」です。

education(エデュケーション)は英語で教育と訳されますが、ラテン語の educare「エデュケア」が語源です。そして「エデュケア」とは「能力を引き出す」という意味なのです。この言葉は、私達教職員から見れば、生徒の内側にある潜在的能力が表に現れるよう支援し、開花できるように努める事です。生徒側から捉えると「あなたは、自分でも気づかない程、様々な可能性の種をもっている存在ですよ」という意味を持ちます。生徒の皆さんは、その種を内に秘め、伸ばしゆく時の中を今生きているのです。大切な事は、自分の可能性を信じて、チャレンジしていく事です。同時に、その可能性を開かせるためには、「学ぶ意欲」が必要です。それが無ければ開く花も開きません。ですから生徒の皆さん、「学ぶ意欲」を大切にしてください。

educare「エデュケア」にはもう一つ意味あります。エデュケアの単語の中には、「ケア」という言葉が含まれていますが、ケアは、「気にかける」「他者に気持ちを寄せて共感する」という意味です。ですからエデュケーション(教育)は、他者との関わりを通して、自らも成長するという事でもあります。

そのケアでは、同じ御成門中生として「共に学び、共に成長する仲間」という気持ちを持って、自分自身が行動していくことが大切です。新しい出会いと共同の学校生活が始まり、1か月が過ぎました。何を喜びに感じ、何を悲しみに思うかを「分かろう」とすることが、仲間を大切にする関わりの一歩です。その姿勢を持つ事が、友を得る事にもなり、先生方とのより良いコミュニケーションを図る事にもなります。

School(スクール)の語源も、ラテン語の Schole「余暇・自由時間」からきています。しかし、余暇と言っても自由に楽しむ時間という事ではありません。ギリシア時代、社会に出て労働(仕事)に専念する前の若者が、学問や芸術に専念できる期間を過ごし、生きていく上での基礎や人間性を身に付け、幸福な人生を実現させるために使われる自由な時間を、学校でという場で School しているのです。

今年度の学校生活も2か月目に入ります。保護者・地域の皆様、ご理解とご支援を宜しくお願い致します。